

## 「県民による山形県の財政状況調査報告」

政策研究ネットワーク山形運営委員  
桜桃の会代表  
村 山 恵美子

皆さんこんにちは。桜桃の会代表の村山恵美子です。有川富士子です。よろしくお願いたします。本日は、私たち桜桃の会が平成 23 年度に実施した、山形県の財政状況調査報告をいたします。どうぞよろしくお願いたします。

### 山形県財政状況調査報告

桜桃の会ーやまがた女塾ー  
平成23年11月19日  
12月3日  
山形県男女共同参画センター  
「チェリア」  
山形県県民企画講座

#### 1. はじめに

私たち桜桃の会は、山形県男女共同参画センターのチェリア塾 1 期生の会です。平成 18 年度に設立し、これまで県民企画講座として、政策塾、山形県の議会・行政を知ろう、県民から見た山形県の財政分析、などの講座を企画運営して参りました。

#### 1. はじめに

- 桜桃(チェリア)の会  
チェリア塾1期生の会、平成18年設立
- これまでの活動  
「政策塾」、「統計資料活用講座」、「山形県の議会・行政を知ろう」、「県民から見た山形県の財政分析」

#### 2. 山形県の財政調査の目的

今回の山形県財政状況調査の、当初の目的は、山形県の男女共同参画を財政面から見るというものでしたが、男女共同参画の予算は多方面に組み込まれており、男女共同参画に特化して見ることはできないことが分りました。

そこで、山形県の決算状況の経年変化を、特に教育費、民生費、土木費、農林

#### 2. 山形県の財政調査の目的

- 山形県の男女共同参画を財政面からみる  
⇒男女共同参画の予算は多分野にわたる
- 山形県の決算状況の経年変化をみることで男女共同参画の状況がみえてくる  
⇒教育費、福祉費、土木費に着目

水産業費に注目することで、間接的に男女共同参画が見えてくるのではないかと考えて実施しました。

### 3. 調査方法

調査の方法は、情報公開制度を使い、山形県財政状況調査表を、平成元年度から21年度まで入手し、データ入力しました。今回の資料はこのデータと山形県財政統計資料、地方財政統計年報、を山形大学人文学部の行方教授がグラフ化してくださったものです。では、発表させていただきます。

### 3. 調査方法

- 山形県財政状況調査表を入手  
⇒情報公開制度を利用
- エクセル表にデータ入力  
平成元年度～21年度まで
- グラフ化

### 4. グラフからよむ

まず、グラフから読む。

\*

始めに、「山形県目的別歳出構成の推移」で、1989年から2009年までの山形県の歳出変化を見ると、歳出合計、一番上のピンクの線です。は、1998年をピークに減少し続け、2009年にピョコンと増えています。この中で一番大きな落ち込みは、土木費総額、紫の線です。

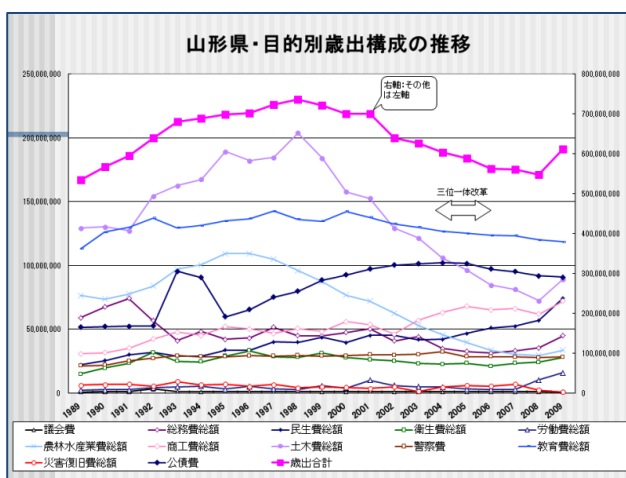
次に、農林水産業費総額、水色の線です。そして教育費総額、青い線です。の順になっています。

このグラフから山形県は、土木費と農林水産業費、教育費で歳出削減してきたことが分ります。

また、2009年には歳出増になっているにも関わらず、教育費と民生費、濃い青の部分です。は、減少しています。教育費と民生費の削減が続いていることが分ります。

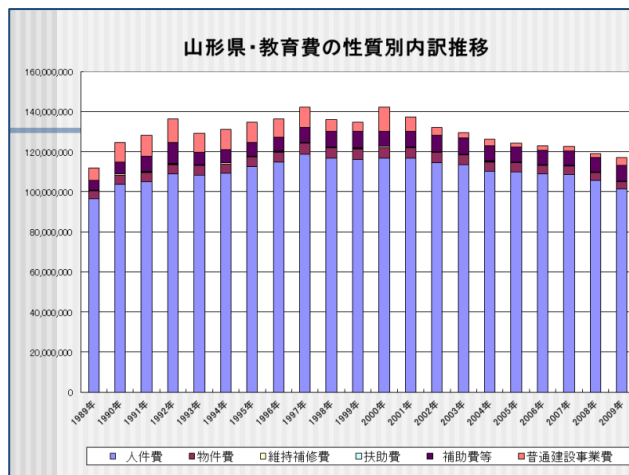
### 4. グラフからよむ

- 山形県の歳出の経年変化  
山形県・目的別歳出構成の推移
- 教育費、民生費、土木費、農林水産業費をみる
- 全国の中の山形県をみる⇒山形県の特徴
- グラフからわかったこと  
考察と提言



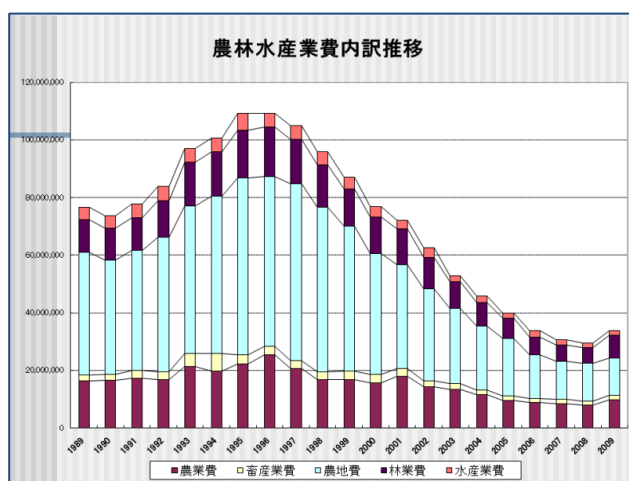
次に「山形県教育費の性質別内訳推移」を見ると、教育費のほとんどが人件費、紫のところ、下の方が全部です。になっていることが分ります。

\*



また「農林水産業費内訳推移」を見ると、一番大きな削減は、農地費、水色の部分です。真ん中の部分です。農地費は土木事業費であり、公共事業費です。

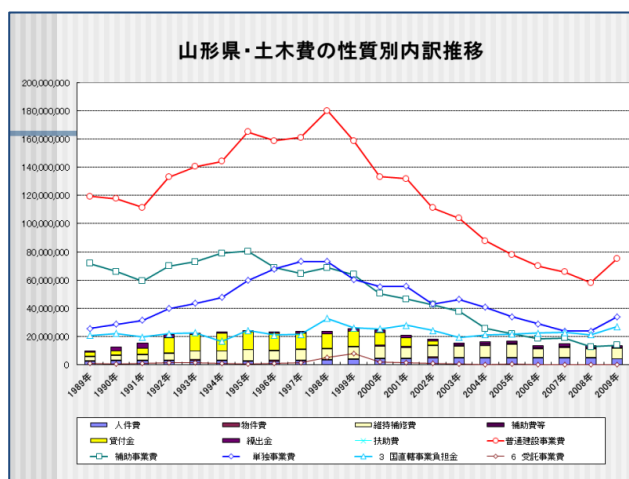
\*



「山形県土木費の性質別内訳推移」を見ると、普通建設事業費、一番上の赤い線です。単独事業費、青い線。補助事業費、水色の線。はともに激減しています。

以上のことから山形県の歳出削減は、公共事業費削減と人件費削減で賄われてきたことが分ります。

実際に、「都道府県性質別構成比比較」の2008年を見ると、山形県の普通建設事業費は下から14番目で、東北では最下位になっています。

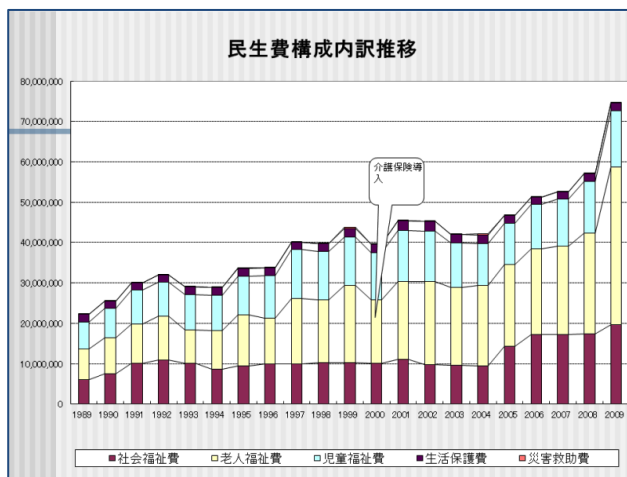


\*

これだけ公共事業費と人件費削減が行われれば、失業者が増大し、生活保護が増えるはずですが、「山形県民生費構成内訳推移」を見ると、生活保護費、一番上の紫の部分です。これは増えておりません。

このことから、従業者の多くが非正規労働にシフトし、不安定雇用になったことが分ります。このことは山形県の若者の就労問題として顕著に現れており、また今後の生活保護世帯増、自殺者増が危惧される一因でもあります。

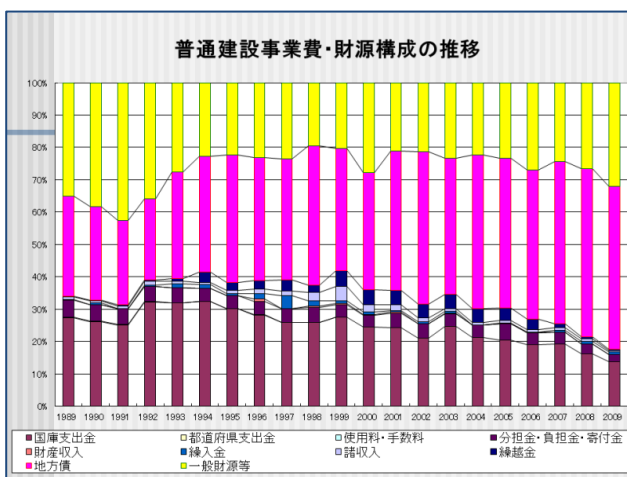
さらに少子化で、児童生徒数が減少しているときに、歳出額を保っていれば、児童生徒一人当たりの教育費が増額になり、教育の質の向上が図れるはずですが、そうはなっていません。教育山形の看板はどうなったのでしょうか？



\*

一方「普通建設事業費財源構成の推移」を見ると、山形県の普通建設事業費の財源の7割近くが国庫支出金、一番下の紫の部分です。と、地方債、真ん中の赤い部分です。になっています。

一般財源、一番上の黄色い部分です。は3割しかありません。この表から、公共事業費激減の原因は国庫支出金の削減によることが分ります。そして、国庫支出金の削減とともに、地方債の割合が増えています。2007年以降の普通建設事業費財源の5割は、地方債です。



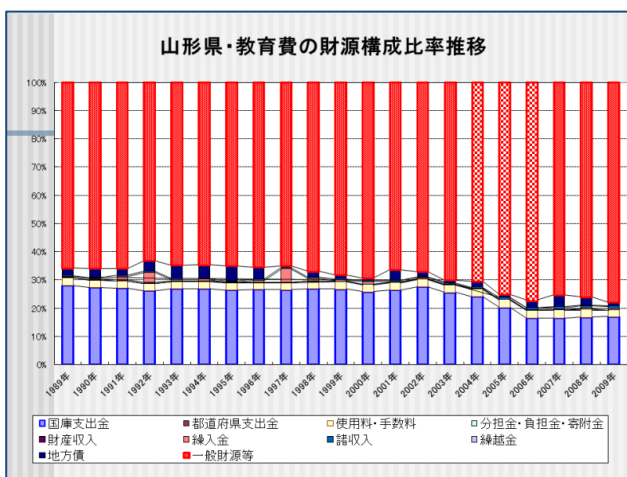
このように山形県ではいくら公共事業費を削っても、一般財源は増えない構造になっているのです。

\*

では「山形県教育費の財源構成推移」を見てみましょう。教育費の財源の8割は一般財源、上の赤い部分です。

\*

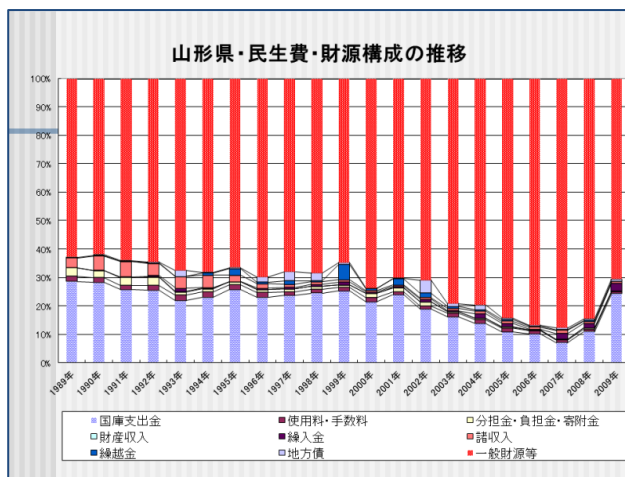
次に「山形県民生費財源構成推移」を見ると、民生費もまた8割近くが一



般財源、これも赤い部分です。になっています。

このことから教育費と民生費を削ることが、一般財源増に直結することが分ります。

2009年に山形県の歳出が増額になっているにも関わらず、教育費と民生費の削減が続いている原因がここにあると思われます。



### 「都道府県目的別歳出比率比較」2

00年で、山形県は一番が土木費、2番が教育費、3番が農林水産業費、4番商工費、5番民生費の順になっています。それが2008年になると、1番が教育費、2番土木費、3番商工費、4番民生費、5番農林水産業費の順になっています。公共事業費の削減で、相対的に教育費の比率が高くなっていますが、全国と比較すると「山形県の教育費歳出比率」は、かなり低くなっています。

2000年の「一人当たりの教育費比較」を見ると、山形県は全国平均より高いのですが、2005年には全国平均に近くなっています。そして2008年は横ばいになっています。このことから2000年から2005年の間に、山形県の教育費が大幅に削減されたことが分ります。つまり、教育施策よりも、人件費削減が優先されたのです。

「児童一人当たりの公立小学校費」を見ると、山形県は高い方から11番目ですが、中学校になると山形県は低い方から11番目になっています。小学校ではある程度お金をかけていますが、中学校になるとグンと減っていることが分ります。

また山形県は小学校、中学校とも2005年から2008年にかけて、一人当たりの学校費はほとんど増えていません。このことから、この間の山形県の教育施策に大きな変化がなかったことが分ります。

また山形県教育施策の目玉である、さんさんプランは、お金がかからない工夫がされていることが分ります。

「一人当たりの民生費」を見ると、民生費は2000年、2005年、2008年と全国的に増えていますが、山形県は全国平均値よりもかなり低く、東北でも4番目です。

「一人当たりの老人福祉費」は、ほぼ全国平均であります。東北では3番目です。現在山形県は3世帯同居率が全国1ですが、今後核家族化が進み、高齢夫婦世帯、高齢単身世帯が増えてくると、ここでも生活保護世帯増と自殺問題が顕著になってくることが予想されます。

「一人当たりの児童福祉費」では、全国的に2000年2005年2008年と増えていきます。しかし山形県は東北の中で見ても4番目であり、全国平均より低い位置にあります。

「子育てするなら山形県」の看板の根拠はどこにあるのでしょうか？

また「従業者一人当たりの農業産出額」は、山形県は農業県であります。一人当たり

の農業産出額は、全国的に見ると決して高くありません。農業産出額の高い県は、都市部へ生鮮野菜を売っている県であり、山形の基幹生産はコメです。現実問題としてコメでは、農業産出額が伸びないという事が分ります。

そして「財源構成別構成比」では、山形県は自主財源である地方税が3割から3割以下です。財源の7割以上を国庫支出金と地方交付税に頼っています。

また山形県は2005年から2008年まで、地方税の順位が変わっていません。これは山形県の歳入構造が変化していないことを表しています。

このことが現在の財源問題として現れていると思われまます。

最後に「財政力指数の各県比較」を見ると、山形県の財政力は全国平均よりも低く、四国、九州、山陰の各県と同じくらいの財政力になっています。

## 5. 今回の調査から見えてきたもの（まとめ）

調査から見えてきたもの。山形県は1998年から2008年までの間、大幅な歳出削減を行ってきましたが、それは主に公共事業費削減と人件費削減で行われました。公共事業費削減は国からの国庫支出金の減少が大きな原因で、人件費削減は、国庫支出金減少による財源不足を補うための、一般財源を確保するための削減です。これは社会状況が大きく変化している

中で、山形県の歳入構造が変化していないために、歳入減への対応が人件費削減でしか対応できない状況になっているためであります。

今回の調査で、国からの支出金に左右される山形県の財政状況が目に見える形で明らかになりました。

また、山形県は「教育山形」「子育てするなら山形県」と謳っていますが、全国と比較すると教育費、民生費共に高くはなく、さらに削減が続いていることが分りました。

人件費削減は、手っ取り早くリストラになります。人件費には仕事がかっついています。そこで今後ますます教育、福祉、医療のマンパワー不足が問題となるのは明らかだと思われまます。

さらにこれらの分野の民営化が進めば、価格競争による質の低下、労働環境のさらなる悪化が懸念されます。またこれまで山形県では一人当たりの所得が低い分を、夫婦とも働きで補ってきました。しかし、不安定就労のため結婚できない若者が増えていることから一層の少子化は免れない事実であると思われまます。

さらに一人当たりの所得が低い山形県では、家族形態の変化で単身世帯が増えれば、すぐさま世帯収入が縮小し、生活保護世帯増、自殺者増につながることを示しています。こ

### 5. 今回の調査から見えてきたもの (まとめ)

- 1998年～2008年 大幅な歳出削減  
⇒公共事業費、人件費の削減
- 教育県の実態  
全国と比較 教育費、民生費共に高くない  
削減が続いている
- 少子化、生活保護世帯、自殺  
不安定就労、結婚できない、1人当たりの所得少

れは高齢者世帯にも当てはまることで、高齢化率の高い山形県では、大きな問題となってくることは明らかです。

\*

これらの問題に対する財政的支えが必用ですが、現在の財政状況ではかなり難しいと思います。

以上のように今回の調査から、山形県の財政政策は県民の生活よりも、財政削減を優先させてきたことが分かりました。県民の安心、安全な生活と、財政のバランスが取れた社会の構築を、県民一人一人が考える時期にきているのではないのでしょうか。このことはやはり、男女共同参画社会の構築につながるものだと改めて考えました。

## まとめ(2)

- これらに対する財政的な備え ⇒ 難しい
- 山形県の財政政策  
県民の生活 < 財政削減
- 県民の安心・安全な生活 = 財政バランス  
⇒ 男女共同参画社会

\*

今回実際の数値を使ったことで、一般県民にも分る財政資料が出来ました。これは非常に大きな成果だったと思います。今後はこの資料をさらに活用し、山形県の多角的な財政分析をしていきたいと思います。

さらに山形県での初めての調査である今回の活動を、市民活動として広げていき、誰が見てもわかる財政資料を作っていきたいと思います。

## 6. 今後の展開

- 山形県で初めての調査  
⇒ 市民活動として広げていく
- 山形県の多角的な財政分析を継続
- 誰が見てもわかる財政資料の作成


\*

最後に財政についても調査研究に対して全く素人の桜桃の会に対して、丁寧にご指導くださった山形大学の行方教授と特別区政研究会の古山氏に心から感謝を申し上げます。

先生方のご指導がなければ一歩も前に進めない調査でした。

ありがとうございました。


以上で報告を終わります。最後までお聞きいただきありがとうございました。



## ありがとうございました

Special thanks!!

- ・山形大学 行方先生
- ・特別区政研究会 古山氏



#### 質問

大変すばらしい調査をありがとうございました。

ちょっと違和感を感じましたのは、確かに財政問題だけではない、例えば補助事業についても、必ず補助金だけで仕事ができるわけではなくて、一般財源を伴うものですから、財政が困難な時には補助金をもらわなくても単独でできるところをやっていこうという県の姿勢も非常に多くあったと思うんですね。

そのあたりも数字だけでは見えない所ももう少しホローしてもらったらいいんじゃないかなと思いました。

#### 村山

ありがとうございます。

#### 質問

大変いい分析だと思うんですけど、これは塊と言いますか平均的な分析なんですよ。ですからこれをもっと細かく分ければ、例えば無駄なところがないのかとか、余計なことをしていないのかとか、そういう選択と集中的な視点でもっと細かく分析を進められればもっといいんじゃないかと思います。

人件費の率なんかもありましたけど、人件費が減らされていますが、全体的に公務員さんの給料の水準はどうなのか、それは減っていないとか、いろいろあると思うんですね、その辺をもっと細かく分析していただきたいなと思います。

#### 村山

ありがとうございました。